

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400427		
法人名	みなとの丘グループ株式会社		
事業所名	グループホーム風の丘 1F		
所在地	鳥根県出雲市小津町23番地1		
自己評価作成日	令和3年3月8日	評価結果市町村受理日	令和3年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	鳥根県出雲市今市町650		
訪問調査日	令和3年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員間での情報共有を図りながら気づきを意識して職員間のミーティングを実施している。また、入居者様やご家族様の思いを享受し、個々の入居者様とのコミュニケーションを図り、意思決定の尊重やご家族様と連携を図りながら希望・要望に沿える支援に努めている。入居者様が第二の生活の場として、今までの暮らしになるべく沿える環境づくりを意識して日々の生活に取り入れる様に努めている。ご自分のスタイルで生活して頂くと同時に、他入居者様との関わりや地域との関わり、体操等を取り入れながら過ごして頂いている。医療面では、馴染みのかかりつけ医の診察による往診や受診を実施し、毎日の体調管理や観察を行い、医療関係者やご家族様との連携を図りながら支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小津町あたりには、福祉施設がなかったことから、住民の強い要望から設立された同法人は、海に向かう県道脇の山を切り開き、通所サービス、居宅支援事業所、小規模多機能型居宅事業所など、地域に密着した福祉の拠点としての役割を担っている。グループホーム風の丘は、満8年を迎えようとしており、1階、2階とも、利用者さんは、それぞれの居場所でゆったりとくつろいで過ごしており、管理者・職員は、毎日を楽しく、満足のいくように過ごせるよう、食事やレクリエーション、外出、行事など様々に工夫している。窓からは、自然が眺められ、施設内は清潔で明るく、職員は親切で優しく、笑顔で話しかけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、玄関、各ユニットに掲示して理念を意識した支援の実践を行っている。	職員の思いで作られた理念「尊重し穏やかな生活を彩れる支援」は、御本人を思う御家族にとっても、意義のあることとして職員が感じ、ともに明るく楽しい生活を送れるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により自粛せざるを得ない状況である。 以前は利用者と共に地域のイベントの参加や地域ボランティアの施設訪問による交流を行っていた。	コロナ禍にあつて事業所と地域との交流がいかにか暮らしにとっては大切であったかを再認識するとともに、自粛が解かれたときのさまざまな計画をたてている。近隣からの入居が多いため、いつでも地域に帰れる安心感はある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「ひかりカフェ」と通じて少しずつ地域発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面による情報提供になっている。 今後の状況により運営推進会議の再開を検討している。	会議では、ホームの取り組みや、利用者さんの様子などを文書で参加者に配布し意見をいただいている。コロナ禍にあつてもホームでのケアを良くしていこうという姿勢は変わらず協力的である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書面や電話による情報提供になっている。 運営推進会議の再開の際には以前のようにご参加いただきサービス向上への意見を生かしたい。	経済的に困難な方や家族の諸事情で入居を待っている人も多く、運営や職員体制などについても市からの助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化のための指針を作成し確認。学習会を適宜実施している。 身体拘束委員会により尊厳のある支援が実施できているか検討している。	利用者さんは、それぞれ認知症の状態も異なり、自分にとっては意味のある行動であり、判断力が低下していても、施錠など人としての自由を奪うことなく、さりげない見守りや、同伴での外出などで、危険予防や安全を心がけており、身体拘束は全く見られない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会を実施して、入居者の尊厳を順守した支援を意識するように、また職員が相談できる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者の研修会参加後、学習会を実施して権利擁護についての理解を深めるように努めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退去時、改定時は十分なお説明を行い理解や納得を得た。都度ご不明な点がある際は対応に努めた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。 入居者や家族からの要望あればカンファレンスを開催し要望に添えるよう努めている。	御家族は、利用者さんの生活をよりよいものになりたいと、様々な意見を言われる。おいしい旬の物を食事として差し入れたりしながら手作りの料理を望んだり、外出やレクリエーションをもっと頻繁にしてほしいなど。職員はそれらを実現するためとりにくんでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催し、経営者の方針を伝えたり、職員の意見や提案を聞いて経営者への報告を行っている。	利用者さんが、楽しく快適な生活を送れるように、職員は常に、様々な意見を述べて、検討している。管理者は、職員一人一人と面接して、意見や思いを聞き取る機会があり、話し合いでなんでもやってみようという方針で職員のアイデアが採用されるため、ケアの向上へのモチベーションは高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、代表者との面談や管理者との面談を行い、職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部法人によるリーダー研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ協会社との合同研修会を開催して交流やサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書等による情報収集に加えて、ご本人との関係構築のためのコミュニケーションを図り、職員間で情報共有に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等の立場になって安心していただけるような対応に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族並びに医療機関やケアマネージャーの意見を踏まえ、グループホームの入居が適しているのか検討し見極めた上の決定になるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の観点からできないことを支援している。入居者様は人生の先輩として関わらせていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様への報告を行っている。十分とは言えないが面会を自粛している関係上、書面や電話での対応になっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会自粛解除の際には、以前のように馴染みの人との交流の場を提供したい。会話の中で馴染みの人や場所を取り入れることに努めている。	地域の要望から生まれた事業所であり、入居者も近隣の方が多い。コロナ禍にあって面会制限などあるが、感染防止対策の下に日常的な外出や、訪れる地域の人々との交流など、馴染みの場や人との関係を徐々に再開している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の心身状態に配慮して座席を決め、入居者同士が良い関係を築ける環境構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談があれば支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や表情並びに行動により、ご本人の意向把握に努めている。	認知症の方の思いを引き出すのは難しいときもあるが、その方の生きてきた物語を聞き取ったり、ご家族からその方の好みや意向を聞き取ったりして、思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書、ケアマネージャーやご本人、ご家族や可能な範囲内でご親族への聞き取りにより把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや心身の状態、日常生活動作の観察を行い、変化に応じた対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の質向上に考慮・配慮した介護計画を、ご本人、ご家族並びに関係者と話し合っ て作成することに努めている。	介護計画担当者による、家族、本人の意向を踏まえた介護計画は、ユニットの職員全員で検討して個別に作られており、状況の変化に応じて見直し変更がされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や連絡帳による情報共有、職員会議による実践報告を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じた支援に取り組んでいる。 病院への送迎や同伴等、個別のニーズに対して、できる範囲内で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域イベントの参加やボランティア施設訪問を実施していた。 現時点ではコロナ禍により自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との協力関係を築けている。 密な連携を図って安心した医療の支援ができています。	地域におけるかかりつけ医に継続して受診できることは、自ら症状を表現できない認知症の高齢者さんにとっては、早期発見早期治療につながる。受診には必ず職員が同席して、日常の様子を医師に伝えるとともに、医師から医療面での気をつけることなどを伺い、家族にも伝える。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師は在籍していないが、隣接施設の看護師や、かかりつけ医への相談により適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供を行い、入院中も医療機関やご家族との相談や連絡に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームの施設環境が入居者の生活を守る観点から支障が生じると考えられる場合、対象者と話し合いを行い最適な支援につなげている。	利用者さんのかかりつけ医の協力や、隣接する同法人施設の看護師などと連携を密にしていき、重度化にも適切に医療につなげるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。 救命救急やAEDの使用について学習をしている。 外部講師による講習は現時点で自粛している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の実施や防災機器の使用についての学習を行っている。 コロナ禍により、消防隊員等の専門家からの指導は自粛している。	利用者さん参加の避難訓練を年に二回は行い、また、夜間想定のものも実施しており、法人全体で災害に対する備えを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重を意識した対応に努めている。	利用者さんは、それぞれに似合う着こなしで、落ち着いた雰囲気でご過ごしておられる。職員さんの声かけや親切で優しい態度は、一人一人を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の活動状況を観察し、できないところや危険リスクが考えられると判断する場合は支援するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りご本人の生活ペースに添った支援に努めているが、外出や買い物はご希望に添えていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に適した衣類や整容に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けと一緒にできる機会は少ない。	利用者さん家族から、差し入れ野菜や惣菜もあるという。皆でテーブルを囲んで和やかに食事を共にしている。野菜も豊富で栄養バランスに配慮した献立は好ましい。利用者さんとともに手作りの食事を作る機会もあり食べる楽しみも多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や水分摂取量の記録を行っている。摂取不足傾向みられる際には対応を検討し支援している。水分制限や塩分制限ある方の管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状態に応じて、見守りや介助を行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや排泄動作能力に応じて必要な排泄支援を行っている。	利用者さんのほとんどが、失禁をされるが、それぞれの排泄パターンを把握しており、さり気なくトイレに誘うことで、自然な排泄ができるよう介助している。トイレは清潔で、臭などもしない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や乳製品の摂取を意識した支援を行っている。水分摂取量が少ない方は工夫をして摂取いただけるように努めている。かかりつけ医との連携で便秘解消の支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前や午後の日中にて、ご本人のタイミングで入浴していただいている。体調面によるが、週三回の入浴を支援している。	浴室は明るく清潔である。入浴を保清のためだけでなく、お風呂の温度を一緒に見てもらう、お風呂の雰囲気をよくするなど、リラックスした、楽しい時間となるよう、職員が日々工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や体調に応じて休息いただいたり、個々の状態に応じて、かかりつけ医と連携し、安心して睡眠が確保できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに服薬説明書を綴じて確認できるようにしている。不明な点や症状変化みられた際には速やかに関係機関(かかりつけ医、薬剤師)に相談して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を一緒に唄ったり、洗濯物を畳んでいただいたり、計算やパズル、塗り絵や作品作り等、その方の能力が発揮できる場面の提供に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は利用者と共に季節に応じた外出や外食、買い物を持行的に行っていた。コロナ禍により自粛せざるを得ない状況であり、状況をみて再開を検討したいと考えている。	ホームから民家のある町までは、数百メートルあって、歩いて町には出かけられないが、ホーム周辺の散歩や車での外出など日常的に外出しており、ホームに閉じこもらない暮らしとなっている。海辺での花見の計画やドライブなど今後の計画も立てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が全てできる入居者の方は現時点不在である。少額の所持で安心される方は所持いただいている。預り金としてご家族様からお預かりし、ご本人の必要なものを代行で購入して施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人へのご家族やご親族から電話がある際には対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明設備やカーテン類による光量調整や空調設備・加湿器等による室温・湿度調整を行っている。飾り付け等を施し、居住空間の掃除と消毒を毎日心掛けて行っている。	窓から自然の緑が見渡せるホールは明るく清潔であり、オープンキッチンで湯茶や料理が出来る家庭的な雰囲気である。ソファやテーブルなど居心地良く過ごせるよう配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の大テーブルや小テーブル、ソファを使用し、気の合う方や職員と過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の思い入れのある家具や装飾品を希望が叶えられる範囲内で持参いただいている。	個室は、窓から自然の風景が眺められ、明るく清潔である。利用者さんはそれぞれにプライベートな空間を居心地良く過ごせるように、家具や椅子ソファ、テレビなどをしつらえており、壁には写真や絵が飾ってある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全にできることは行っていただくように、声掛け促して自立支援に努めている。		